

# 登山・登攀の記録

## 北アルプス 上の廊下～双六谷

日時: 1994年8月9日～8月14日

メンバ: CL 高岸 且、村田 洋、鶴飼 一博

**概要:** 夏山合宿の2部として行う。下西は伊藤先生と丸山東壁でルート開拓。近藤は脚と腕の不調により帰洛し三人となった。当初、水の多さ冷たさに影響を受けたが、その分完璧に遡行出来たことはメンバー全員に大きな自信となる。広く明るく素晴らしい沢。

### 記録

8月9日 晴れ

大町(5:30)ー黒部ダム(7:35,8:35)ー平ノ渡し(11:30,12:00)ー奥黒部ヒュッテ(14:00,14:40)ー熊ノ沢出合キャンプ1(15:10)

扇沢まではバスに乗り、ダムまではトンネルの中を1時間半弱歩く。ダムのトラバース道をとばし昼の船にのる。ヒュッテおばさんの話によると、去年より水量はやや多め。

8月10日 にわか雨のち晴れ

キャンプ1(7:10)ー口元のタル沢出合(9:50)ースゴ沢出合(13:00)ー金作谷出合キャンプ2(14:10)

はじめなれぬ渡渉に少々びびるが、すぐに慣れ急なところでは、3人肩組などで通過して行く。下の黒ビンガの入口のゴルジュはザイルを付けて右岸の岩から飛び込み左岸へ渡る。口元のタル沢出合手前の右岸の斜上する岩を7m登り残置ハーケンからアップザイレン。出合を過ぎてすぐのゴルジュ帯は、右岸の水ぎわを10mアンザイレンして移り、次に左岸に移りフィックスロープを使って高巻きする。昼前より小雨、体が震える。廊下沢出合までは、ボルダー群を越えて進み、そこからスゴ沢出合までは、小石の広がる平流となり難はない。スゴ沢出合を過ぎてまもなく、上の黒ビンガが始まる。所々の急流の渡渉は、胸にまで達することがあったが思ったより早く金作谷出合に着くことが出来た。



金作谷出合 C2

8月11日 快晴

キャンプ2(8:10)ー岩苔小谷出合(11:00)ー立石奇岩(12:00 から 13:00)ー金作谷出合キャンプ3(14:10)

金作谷出合からすぐのゴルジュ帯も悪くまだ日の入らぬ谷での渡渉はかなりこたえた。東からルンゼが入る一ツ目の屈曲点にて我々は、左岸水際をトラバース。右岸にはフィックスロープが垂れていた。立石奇岩までも胸までの渡渉を数度繰り返す。高天原からの大東新道がある沢出合の大きな淵は左岸を5mのアップザイレンで抜ける。



金作谷～立石間

# 登山・登攀の記録

8月12日 晴れ



キャンプ3(7:05)ー薬師沢出合(7:45 から 8:15)  
ー赤木沢出合 (9:10 から 9:40) ー五郎沢出合  
(10:35 から 11:30)ー黒部五郎小屋 (12:30 から  
13:30) ー蓮華谷出合キャンプ4 (16:00)

薬師沢出合より、淵を持つ2m程の滝をトラバースで越すと赤木沢出合の淵である。何と美しく、何とたおやかなことだろう。半時間ほど眺める時間を取った。五郎沢は平均して難はなく、源頭のお花畑から小屋に出た。気持ち良いことこの上ない。九郎右衛門谷は、南面谷だけあって苔もあって滑りやすい。村田は滑って手に切傷を作っていた。10m級の斜めの滝が3つあるがクライムダウンでこなす。蓮華谷出合手前で45mの大滝があらわれる。この滝は、クライムダウンで右岸を10m程下降し、小さな尾根から滝の落ち口に向かって35m懸垂下降で通過する。蓮華谷との出合でサイト。



8月13日 晴れのち曇り

キャンプ4 (7:30) ー双六谷出合(8:10)ー最後の二股キャンプ5 (15:15)

双六谷に向かって下降。地図の滝マークは、右

岸をブッシュ沿いに巻いているうちに通過。双六谷上部は悪場もなく楽に行く。2000mを越えたころ100m程の小雪溪が3ヶ所出てくる。ここは、ラッシュで我々以外に4パーティが入っていた。双六岳を見上げることの出来る二股付近でサイト。

8月14日 雨

キャンプ5(7:15)ー登山道(9:35)ー鏡平(10:25から 10:35)ーわさび平 (12:00 から 12:55) ー新穂高温泉(13:40)

出発してすぐ小池新道らしきトラバース道を見つけ、大ノマ乗り越しを目指す。途中で道が不明瞭となり、稜線へと直上する。“藪こぎ無き沢登り”の夢が壊れ、約2時間ハイマツの洗礼を受けてしまう。雨も強くなり、視界も閉ざされ苦勞させられた。登山道に出てからは、跳ねるようにかけ降りる。新穂高温泉と高山で風呂に入り合宿の疲れを癒す。(記/高岸 且)

